

	九州工業大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:531 第3年次:20） 情報工学部（第1年次:410 第3年次:50） 大学院工学府（M:261 D:17） 大学院情報工学府（M:175 D:14） 大学院生命体工学研究科（M:122 D:36）
沿 革	大正10（1921）年 官立明治専門学校創立（私学から移管） 昭和24（1949）年 新制九州工業大学工学部設置 昭和40（1965）年 大学院工学研究科設置 昭和61（1986）年 情報工学部設置 平成3（1991）年 大学院情報工学研究科設置 平成12（2000）年 大学院生命体工学研究科設置 平成20（2008）年 大学院工学研究科を改組し、大学院工学府設置 平成20（2008）年 大学院情報工学研究科を改組し、大学院情報工学府設置
設置目的等	<p>九州工業大学の母体である官立明治専門学校は、大正10年、私立明治専門学校創設時（明治42年）からの基本理念である「『技術に堪能(かんのう)なる士君子』の養成」を継承して官立移管された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時には、官立明治専門学校は、九州工業大学として継承され、北九州地方の諸工業の発展への貢献、とりわけ、石炭の採掘、その利用並びに製鐵製鋼に関する学術の研究を盛んにし、もって我が国の産業に寄与することを目的に、工学部が設置された。</p> <p>昭和40年、創造力と実践力を備え、かつ国際的にも通用する高度の専門技術者、研究者を育成することを目的として、大学院工学研究科が設置された。</p> <p>昭和61年、エレクトロニクス、コンピュータ、情報処理分野の技術者及び産業分野のシステムエンジニアの養成を図り、高度情報化社会における社会及び地域の発展に寄与することを目的として情報工学部が設置された。</p> <p>平成3年、高度情報化社会の建設に主導的な役割を担うべき上級情報技術者と情報研究者を育成することを目的として、大学院情報工学研究科が設置された。</p>

	<p>平成12年、生体の構造的・物質的機能の応用と脳の情報処理機能の模倣を工学的に実現する技術に関する教育研究を行うとともに、萌芽的学際領域である生命体工学のシステム技術を発展させ、生体機能と脳情報の二つの絞り込んだ対象領域を総括し先端的学問分野の確立を図ることを目的として大学院生命体工学研究科が設置された。</p> <p>平成20年、学部・大学院教育及び研究を強力に推進し、先導的な工学系の教育研究を実現する組織とすることを目的に、教員が所属する研究組織として研究院を置き、教育組織として、既設の学部に加え、工学研究科・情報工学研究科を廃止して工学府・情報工学府が設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>九州工業大学においては、「技術に堪能なる士君子の養成」の基本理念のもと教育研究に取り組み、その成果を通じて社会に貢献してきたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 品格と創造性を有する人材を育成する教育を展開し、我が国の産業振興に貢献できる高度な技術者等の育成の役割を充実するとともに、研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。</li> <li>○ 「自学自習力育成による学習意欲と学力の向上」などの自律的学修を支援するプログラム、及び「PBLを基軸とする工学教育」などの課題解決型教育等によるアクティブ・ラーニングの推進や「自動車・ロボットの高度化知能化に向けた専門人材育成連携大学院」などの産学連携を活用した特色ある教育を推進してきた実績並びに国際的通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を踏まえて、教育改革を進め、主体的に学び、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な能力を身につけることができる学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。</li> <li>○ 環境関連工学、航空宇宙工学、高信頼集積回路、情報通信ネットワーク、ロボティクス分野などの高い研究実績や歯工学連携などの異分野融合研究の高い実績を生かし、先端的な研究を推進する。</li> <li>○ 受託研究・共同研究の受け入れや特許取得数の高い実績を生かすとともに、大学発ベンチャーの創出と支援の実績を踏まえ、今後とも我が国の産業の活性化に繋がる実践的な研究等の取組を一層推進する。</li> <li>○ 情報教育支援士養成プログラム、長期履修制度や地域企業と連携</li> </ul>

したドクターチャレンジプログラムなどの取組実績を生かし、産業振興を推進する地域に位置する大学に相応しい社会人の学び直しを推進する。

- 小中高校生に対する理数教育支援を地域の諸機関と連携してきた実績を踏まえ、理工系に興味を持つ青少年の育成を支援する。
- マレーシアに設置した教育研究拠点の活用とグローバル展開、国際共同研究に繋がる海外研修プログラム、ダブルディグリー制度や諸外国の学生との相互派遣交流などの実績を踏まえ、教育・研究の国際化を推進する。